

154-参-外交防衛委員会-6号 平成14年04月09日

山口那津男君 地雷除去支援について、最後に外務大臣にお伺いしたいと思います。

公明党としては、この地雷除去支援の小委員会を作りまして、これまで探査ロボットの開発の研究の現場とか、あるいは地雷除去をするための処理の機械、具体的にはショベルカーの先にロータリーカッターを取り付けて、植栽を取り除き、そして地面を掘り返し、同時に埋設地雷を破壊すると、こういう作業ができる、そんな機材も調査、視察してまいりました。それらの調査の中で感じていることを三つ申し上げます。

一つは、この地雷の処理そのもの、もちろん大事でありますけれども、このショベルカー、ロータリーカッターを使ったショベルカーを応用いたしますと、土を掘り返し、余分な植栽を取り除くことによって、その後すぐに農業活動、つまり畑になるということでもあります。この機械を使えば、土壌中和剤とかあるいは肥料とかいうことも土に取り混ぜて土壌改良もできるわけでありまして、非常に多目的、応用範囲の広いものであります。したがって、我が国がこれらに支援する場合には、地雷除去だけの観点ではなくて、こうした農業開発にも注目した、言わば

総合的な支援の在り方というものを検討していただきたいと思えます。

それともう一つは、武器輸出三原則との関係でありまして、これは、この原則は外務省の所管ではありませんけれども、しかしこれは従来厳格に管理されてきた、これはこれでよろしいと思えますけれども、人道目的による支援については、私はもう少し柔軟な、かつ武器輸出三原則の趣旨を曲げない、そういう対応が必要であろうかと思えます。特にその支援の現場にある外務省といたしまして、この点についての考え方をこれからよく検討し直してもらいたいと思えます。

もう一つは、国内でロボットやそうした処理機材の開発をやっている方々というのは大勢いらっしゃるわけでありまして。是非、この国内のこういった言わばソースといえますか資源といえますか、こういったものに対して、外務省が近々設置する企画官というポストもあるようでありますから、是非現場、国内の様々な現場をこの目でこの目で確かめていただいて、効果のある支援策を打ち立てていただきたいと思うわけでありまして。

以上の三点、感想を申し述べましたが、外務大臣の所感をお述べいただいて、私の質問を終わります。

委員長(武見敬三君) 時間が超過しておりますので、次の質問者に移りたいと思います。